

あいのかぜ

VOL. **12**

2001・秋号

特集

一緒にやるのって楽しい！
～家庭科の現場から～

"あいのかぜ"は、男女共同参画社会の実現に向けて、市民一人ひとりが男女共同参画に関する正しい理解と認識を深めることを目的に、公募市民3人からなる編集委員によって企画・編集された情報交流誌です。

一緒にやるのって

皆さんは、今、学校で「家庭科」がどのように学ばれているかご存知ですか？

1988年(平成元年)の学習指導要領改訂に伴い、移行期間を経て「家庭科」の現場に大きな変化が起きました。

それまで中学・高校では、男子が技術、女子が家庭科と別々に学んでいたのですが、今では、小学校から一貫して男子・女子の区別なく共に家庭科を学んでいるのです。

男女と一緒に学ぶと、一体どんな授業風景になるでしょう？私たちは興味津々で中学校の家庭科授業を取材しました。

家庭科は人気科目

取材にご協力いただいたのは、水橋中学校3年生の家庭科(選択授業)です。選択授業の中で家庭科は人気が高く、希望者全員が授業を受けられるわけではないということでした。

(水橋中学校では、通常の授業のほかに週に1回「家庭科・技術・体育・音楽・美術」から1科目選んで授業を受けるという「選択授業」がある。)

家庭科を選択している生徒は25人、そのうち男子が9人、女子が16人。思った以上に男子が多く、驚きを感じました。

授業のテーマは「フリースを使って衣服作りに挑戦しよう!」。人気のフリースを用いているあたりに、時代が感じられます。

ちょっと意外?

懐かしいチャイムの音とともに授業が始まりました。

フリースを使って何を作ろうか?前回までに生徒たちは、ぬいぐるみや帽子、パーカー、ベスト、短パンなどいろんなデザインを考えました。今日は採寸と裁断の作業です。

先生はまず採寸の方法を説明。生徒たちはみんな先生の話の聞こえと黒板の前に集まります。すると意外や意外、なんと男子の方が女子よりも前に集まるのです。先生の「短パンを作るにはどこを測ればいい?」という質問にも、「ウエスト!」「ヒップ!」「短パンの長さ!」と男子が明るく積極的に答えています。先生と生徒たちの間で自由に言葉が行き交い「楽しいモノづくりの時間」といった印象を受けました。

みんなで一緒に...

先生の説明が終わるといよいよ各自の作業へ。4~5人ずつの班に分かれての作業です。どの班も男子と女子でバランス良く構成されていました。

みんな屈託なく実に楽しそうに、でも至ってまじめに作業に取り組んでいます。ぬいぐるみを作っている生徒たちはお喋りをしながら針を動かす、パーカー、ベスト、パンツといった大物に取り組んでいる生徒たちは、大きく布を開いて慎重にはさみを進めています。採寸に手を貸したり裁断を手伝ったり、ごく自然に男子と女子と一緒に作業を進めていきます。

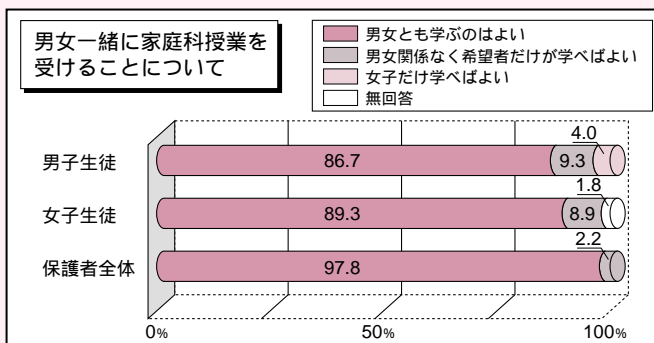
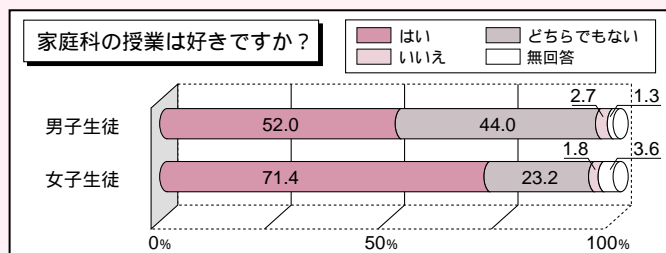


生徒の声

- 男が働いて女が家事をするというイメージがなくなるべきになればいい。(男子)
- 昔みたいな「亭主閑白」みたいなのがなくなって、家の差別がなくなってほしい。お父さんも、お母さんも同じ人間で親だし、同じことをしないのはおかしい。(女子)
- 男性も家事をするようになると思う。実際自分も家事をしたいと思うし、将来家庭を持ったときは、交代にするなどしたい。(男子)

水橋中学校3年生の皆さんと、その保護者の皆さんにアンケート調査を行いました。

(有効回答数 生徒 131人、保護者 46人)



楽しい!!!

～家庭科の現場から～



家庭科の授業は楽しい。モノを作るのが楽しい。
(男子)



(結婚した人が何もしない人だったら?)
いや～別れる!(笑)
(女子)



友達と誘い合ってこの授業を選択した。
(男子)

特別なことでなく、ごく普通のこと

最初は「選択授業だから特に家庭科好きの生徒が集まっているのかな」と私たちは思っていました。でも、生徒たちに改めて尋ねてみると、通常の家計科授業も同じような雰囲気だということです。授業の間中、ごく普通に、ごく自然に取り組む生徒たちに新鮮な驚きさえ感じました。

男子も同じように家庭科を受けることについて尋ねると、女子生徒は「え～? そんなの普通のことでしょ?」と、そんな質問をするほうが不思議と言わなければなり。びっくりしたような返事でした。

男子の中には「授業で家庭科を選択していても、家では針を持つことはない」という生徒がいる一方、女子の中には「家でもボタン付けをしたり、たまには何か作ったりする」という生徒がいるなど、多少の違いはありましたが、「男女と一緒に家庭科を受けるのはとても楽しいし、普通のことだと思う。男だって洋服を作ったりするのは当たり前」と、生徒たちは声をそろえて答えます。男子もみな「家庭科が好き」なのです。

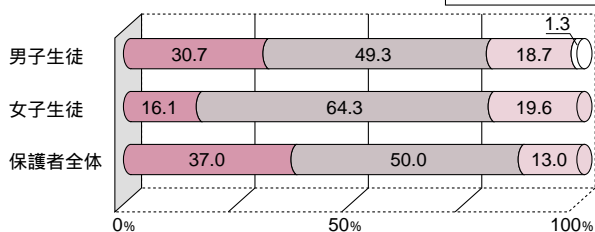
少なくとも、今回取材させていただいた生徒たちにとって「家庭科は男女が同様に学ぶのが当たり前」ということのようにです。私たちがどこかで抱いていた「家庭科は女子の科目」というイメージは吹き飛ばされてしまいました。

保護者の声

- これからの時代は、男女区別なしで、助け合いながら家事をこなさなくてはならない。
- 学ぶだけでなく、それを実行して男女の区別がない生活を送れるようになることを期待する。
- 共働きする家庭が増えていくので、男女が共に学ぶことは良いことだと思いますが、家庭を守る主婦の仕事の素晴らしさも子供たちに教えてほしいと思います。

「家庭科」の授業を受けることによって、家事に参画する男性は増えるようになる?

■ そう思う
■ 少しそう思う
■ そう思わない
■ 無回答

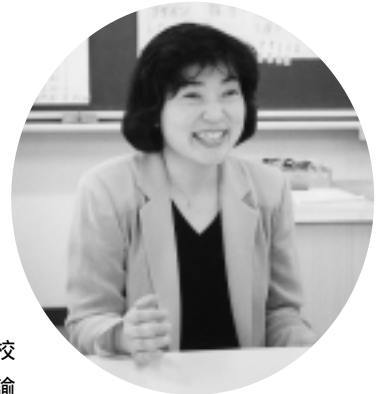


みんなが大人になるころは...?

取材を通して、今、私たちが持っている「男だから」「女だから」という意識や、そこから発生する「性差による不公平」はどこから生まれてきたのだろうかと考えてしまいました。そして、みんなが大人になったとき「どんなことも男女と一緒にやるのは当たり前」と、今と変わらない気持ちでいてくれるといいなと思いました。

男女が共に学ぶいまどきの家庭科。

この「いまどきの家庭科」は、一体どんな役割を担っているのでしょうか。
「家庭科」への熱い思いを西中美千子教諭に伺いました。



富山市立水橋中学校
西中美千子教諭

今、中学生は「家庭科」でどんなことを学んでいるのですか？

「生活の自立と衣・食・住」「家族と家庭生活」を3年かけて学んでいます。以前よりも、どれも生活に密着した基本的な内容になっています。

例えば「衣服」ブラウスやパジャマの製作といった洋裁学校のような実習は、今ではありません。授業数が減ってしまい、実質的に“できない”という面もちろんありますが、一番大きな理由は、製作実習よりももっと大切なこと...生活の中で最低限必要なことに力を入れるようになってきたからです。自分の生活を自分でちゃんと整えられるよう自立することを考えると、ボタンやスナップを付け直すとか、服のすそをまつり縫いする方が、より身近で生活に必要なことですよ。

さらに現在では「家族と家庭生活」という分野も教科書に登場しています。家族と自分との関わり、家族の一員としての自分という視点で自分と家族とを見つめ直すことで「自分は一人で生きてきたのではなく、家族に支えられて、今こうやって生きているんだ」ということに気付き、また、お互いの立場や役割を理解し、協力し合っていくことの大切さを学びとっていきます。

男女と一緒に「家庭科」を学ぶようになって、生徒たちの様子はいかがですか？

以前「どうして僕たちは家庭科を受けられないの？」と不満を漏らす男子もいたくらいですから、男女が共に家庭科を学べるようになって、それはそれは楽しんでやっていますよ。「どうして男の僕たちが家庭科をやらなくちゃいけないの？」という声は全くないですね。

男女と一緒に授業をしてみて、私自身、改めて気付かされたのですが、男子と女子とでは疑問に思うところが違うんですよ。例えばご飯を炊く時、お米を水につけますよね。女子

は経験から何の疑問も持たないんですが、男子は「どうして？」と追求するんです。そして、男子が疑問に思う事に対して女子がまた興味を持つ...お互いに刺激を与え合っているんですよ。男子だけ、女子だけでは考えられなかったことも、一緒に学ぶことでお互いが視野を広くして考えられる。それぞれが持っている良さを出し合っているのではないのでしょうか。

男女共同参画に向けて、「家庭科」はどんな役割を持っていると思いますか？

“男女共同参画”という言葉は、残念ながらまだ授業の中で使ってはいませんが、家庭の仕事を男がするか、女がするか、ロールプレイング(役割演技)をして考える授業はしています。

例えば「妻がパートで、帰宅が遅くなってしまった。夫も子供も帰宅しているのに、夕食の支度がまだできていない」という設定で、自分が夫・子供の立場ならどうするか、妻の立場ならどうするかなどを生徒たちが考え、それぞれの役割を演じるんです。

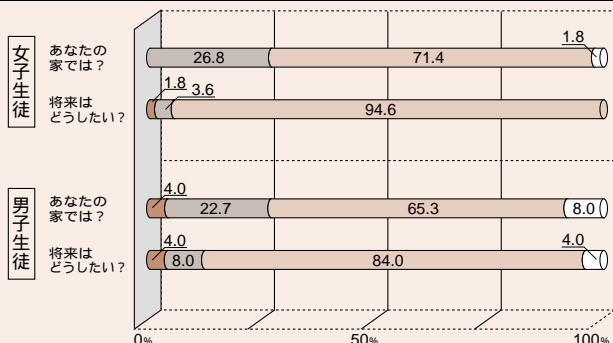
実際、夫役の生徒からは「夕食の支度も出来ないなら、パートなんかやめてしまえ」というセリフも出るんですが、それに対して「妻だって仕事で疲れて帰宅しているのに」「そんなこと言わずにお互い協力し合えばいいんだ」という様々な意見が出てきます。このように、家族それぞれの立場に立って考えたり、家族同士の思いやり・助け合いの大切さを学んだりできるのは、「家庭科」だけじゃないでしょうか。

“協力し合う心を育む”という意味で、「家庭科」は大切な役割を持っていると思います。

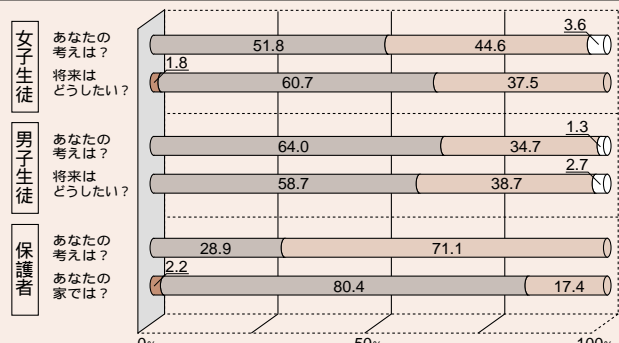
家庭内の仕事についても尋ねてみました。

■ 男性の仕事 ■ 女性の仕事 ■ 区別はない ■ 無回答

子どもの世話について



洗濯について



生徒たちの将来にどんなことを期待していますか？

男子と女子が一つの机で一緒に考えたり、作業をしたりしている今そのままの自然な形で、将来もいろんなことを協力してやってくれたらいいなと思います。

「これは男の仕事」「これは女の仕事」と役割を決め付けてしまうのではなく、「夫が出来ない時は妻がやる」「妻が出来ない時は夫がやる」というような...それぞれの良さを生かして、いつでも協力できる思いやりやゆとりを持ってほしいですね。

「家庭科」への思いをお聞かせください。

現在の「家庭科」の内容には満足しています。人間としての本当に大切なところを担っているという実感がありますね。

ただ文部科学省では、授業内容を精選する方向に動いています。また、来年度からの新学習指導要領では授業時間もさらに削減されますので、大変憂慮しています。

「家庭科」は決して難しいことを学ぶのではなく、本当に生活に身近なことを学ぶものです。自分の生活をよりよくする教科であり、生き方に関わる教科でもあると思います。ですから、魅力ある教科として、是非是非残したい教科として、PRしたいですね。

男女が家庭においても共同参画する大切さは、頭ではわかっているけれどもなかなか難しいものです。自分の中にある性別にとらわれた従来の固定観念に縛られているからではないでしょうか。

男性の皆さん、もし夫婦二人とも疲れて帰宅したとき、一緒に台所に立って食事を作ることができるでしょうか？そして読者の皆さん、そんな光景を何のこだわりもなく見ることができるでしょうか？

私たち大人が「男だから」「女だから」というこだわりをなくしたら、子供たちも将来、より自然に協力し合う家庭や社会を築けると思いませんか？

まとめ知識

ジェンダー

「男は仕事、女は家庭」や「女だから」「男だから」で表されるような社会的、文化的に形成された性別のことをいい、生物学的な差異による性別とは区別して使われる。また、こうしたジェンダー意識にとられないことを「ジェンダーフリー」という。

男女共同参画社会

男女が社会の対等なパートナーとして、互いにその人権を尊重しつつ、責任をともに分かち合い、性別に関わりなく個性と能力を十分に発揮できる社会のこと。

あなたの意識をジェンダーチェック!

地域や社会生活の中で「男性」「女性」という理由だけで役割が決められてしまうことはありませんか？

このジェンダーチェックは、日常生活の中で当たり前と思って見過ごしている意識や言動を見直していくものです。

日ごろの生活を振り返って、あなた自身をジェンダーチェック!

1	職場でお茶を入れるのは、女性の仕事だ。	はい	いいえ
2	会議・自治会などの話し合いは、男性に任せればよい。	はい	いいえ
3	「男だから...」「女だから...」などと言ったり、思ったりすることがある。	はい	いいえ
4	学校の名簿で、男子が先にくるのは当たり前だと思う。	はい	いいえ
5	男の子が生まれると、跡継ぎができてよかったと思う。	はい	いいえ
6	子供のしつけは、女性がする方がよい。	はい	いいえ
7	女の子には、地元の学校に進んでほしいと思う。	はい	いいえ
8	責任のある役職は、男性がふさわしい。	はい	いいえ
9	男性（男子）が、おしゃれに気を使うのはおかしいと思う。	はい	いいえ
10	食事の支度などの家事は、女性の仕事だ。	はい	いいえ
11	男性は、料理や洗濯ができなくてもよいと思う。	はい	いいえ
12	共働き家庭の場合、育児休暇や介護休暇は女性側がとるものだと思う。	はい	いいえ

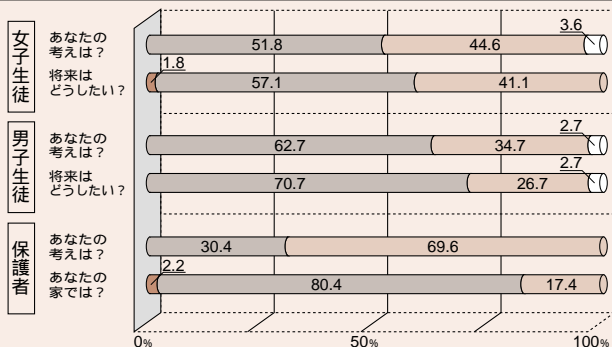
チェックの結果はいかがでしたか？

「はい」と答えた数が多いほど、ジェンダーにとらわれているといえます。一方、「いいえ」と答えた数が多ければ多いほど、ジェンダーフリーといえます。

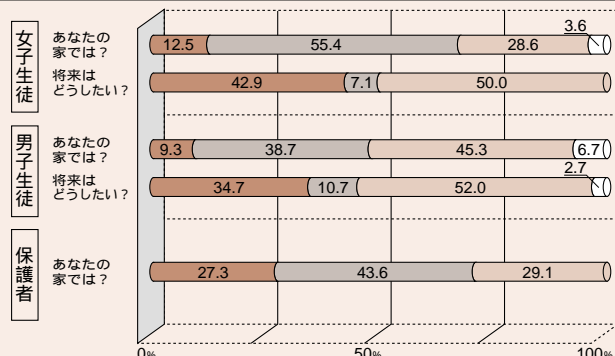
こうしてみると、そうは思っていないつもりでも、実際には、性別によって役割や機会が不平等になっていることに気付いていないことも多いのではないのでしょうか？

男女共同参画社会とはジェンダーフリーな社会です。実現の第一歩として、身の周りに潜むジェンダーに気付くことから始めませんか？

食事の仕度について



ゴミ出しについて



男女共同参画社会の実現は、みんなの手で！

富山市は、平成4年度から平成12年度まで実施してきた『富山市女性行動計画』の成果をふまえ、今年度から10年間で取り組む『富山市男女共同参画プラン』を策定しました。このプランによって男女共同参画社会の実現を目指します。

プランの構成と期間

- 【基本計画】平成13年度から平成22年度までの男女共同参画社会実現に向けた基本理念、基本目標を定め、目標達成のための施策の方向を定める推進計画です。
- 【実施計画】基本計画を具体化するための施策を体系的に明らかにするものです。
第1期（平成13年度～平成17年度）・第2期（平成18年度～平成22年度）

プランの基本理念と基本目標

- 【基本理念】「男女共同参画社会の実現」を基本理念とします。
- 【基本目標】基本理念の実現と市民一人ひとりが心豊かに生き生きと過ごせる社会の形成を目指して、次の4点を基本目標とします。

① 男女の人権の尊重

男女の人権尊重、男女平等についての意識啓発や教育の推進に努め、男女が互いの人格を尊重し合い、人間性を高め合い、対等な一人の人間として認め合う社会づくりへの取り組みが重要です。

② 社会制度や慣行等の見直しと性別による固定的役割分担意識の解消

現在の社会にある制度や慣行等を男女共同参画の視点で見直す必要があります。また、『女だから』『男だから』や、『男は仕事、女は家庭』などの固定観念や性別役割分担意識は、人々の意識の中に根強いいため、これらを解消するための意識啓発に努め、男女平等意識の浸透を図ることが重要です。

③ 男女が等しく能力を発揮するための機会の確保やシステムづくり

男女共同参画社会は、男女がともに役割と責任を分かち合う社会です。雇用をはじめ、社会のあらゆる分野に男女が等しく参画し、能力を発揮する機会が確保されるような社会システムを構築することが必要です。

④ あらゆる場面への男女の主体的な参画

男女共同参画社会を形成するためには、男女が互いを理解し、協力し合って積極的に社会参画していくこと、家庭、学校、地域、職場などのあらゆる分野での『個』としての自己実現をめざして、主体的に参画することが重要です。

市民・団体・企業・市

表紙イラスト募集！

次号「あいのかぜ～Lovely Wind～」(H 14.3月発行)の表紙イラストを募集します。

【応募資格】富山市在住の方

【応募方法】所定の応募用紙に必要事項を記入の上、作品とともに、12月5日(水)までに直接または郵送で青年女性課へ(応募多数の場合は選考)


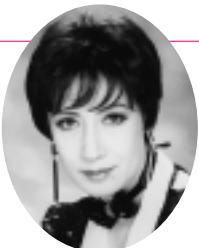
【規格等】A4サイズ(縦)の画用紙または上質紙(モノクロ不可)、フロッピー等でも可。なお、応募作品は返却できませんのでご了承ください。*上部に「あいのかぜ」のタイトルが入ります

＝ 応募については、「広報とやま」10/2号にも掲載します。応募用紙は青年女性課の窓口、女性交流センター、各地区センターにあります。メール配信ご希望の方は、メールでその旨お知らせください。＝

男女共同参画とやま市民フェスティバル ~女と男のつどい2001~

平成13年11月17日(土) 富山国際会議(大手町フォーラム)

「- きらめいて今 - 翔け とやま!」をテーマに、男女が社会の対等なパートナーとして、性別にとらわれず個性と能力を生き生きと発揮できる男女共同参画社会を目指して、フェスティバルを開催します。

メインホール	会議室
<p>男女共同参画宣言都市記念式典(10:00~12:00) = 募集人数 400人 =</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープニング ・男女共同参画都市宣言 ・中学生作文コンクール表彰 ・男女共同参画推進本部報告 (内閣府男女共同参画局長 坂東真理子氏) ・基調講演「わたしたちの手で男女共同参画社会を ~到達点と今後の課題~」 <p>講師: 大澤真理氏(東京大学社会科学研究所教授) 東京大学大学院修了。経済学博士。東京都立大学経済学部助教授などを経て、H10.4月より現職。ジェンダー、女性政策に関する著書多数。内閣府男女共同参画会議影響調査専門調査会会長。</p>  <p>大澤真理教授</p>	<p>ワークショップI(9:45~11:30) *資料代がかかる場合があります</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. CAPおとなワークショップ 「子どもへの暴力防止 ~今、おとなができることは?~」 (募集人数 40人) 2. 「生活防衛・基礎の基礎 生命保険活用法」 (募集人数 30人)
<p>ビデオ上映会(12:00~14:00) 入場自由 「痛みを力に~ドメスティックバイオレンスは犯罪です」 「いま、男たちが変わり始める」 「女と男のイイ関係」</p>	<p>ランチトーク(12:15~13:30) *昼食の実費負担あり(500円)</p> <ol style="list-style-type: none"> A 「男女共同参画は、食卓から」(募集人数 20人) B 「男女共同参画は、家庭から」(募集人数 20人) C 「男女共同参画は、地域から」(募集人数 20人)
<p>入場整理(14:00~14:30)</p> <p>講演会(14:30~16:00) = 募集人数 400人 = 「生きやすい生き方」</p> <p>講師: 美輪明宏氏(シャンソン歌手・俳優) シンガー・ソング・ライターの元祖として「ヨイトマケの唄」などの歌を作るほか、俳優として多くの舞台に出演。奥深い人生経験を基に人間の生き方、上手に生きるヒントをテーマに語る。</p> 	<p>1F交流ギャラリー、3Fホワイエでは団体の活動発表や作品の展示を行っています。 ぜひご覧ください。</p>

応募方法

参加ご希望の方は、次の要領で**10月29日(月)までに往復はがき**をお送りください。多数の場合は抽選とさせていただきます。なお、記念式典・講演会については、両方の入場を希望される方を優先させていただきますので、あらかじめご了承ください。

往復はがきの記入例

記念式典・講演会への参加申込み

<p>(往信の表面)</p> <p>93008510</p> <p>住信 (住所不要)</p> <p>富山市役所 青年女性課 (式典・講演会係)</p>	<p>(返信の裏面)</p> <p>この面には、何も記入しないでください</p>
<p>(返信の表面)</p> <p>返信</p> <p>申込者の住所 氏名</p>	<p>(往信の裏面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記念式典・講演会希望 ・住所、氏名、電話番号 ・託児希望時間

ワークショップ・ランチトークへの参加申込み

<p>(往信の表面)</p> <p>93000805</p> <p>住信</p> <p>富山市湊入船町6-7 サンフォルテ3階 富山市女性交流センター (ワークショップ係)</p>	<p>(返信の裏面)</p> <p>この面には、何も記入しないでください</p>
<p>(返信の表面)</p> <p>返信</p> <p>申込者の住所 氏名</p>	<p>(往信の裏面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・希望するワークショップ、ランチトークの番号・タイトル (第2希望まで) ・住所、氏名、電話番号 ・託児希望時間

*ハガキは、1枚につき1人の申込になります。

託児をご希望の方へ
参加申し込みの際に、裏面に「託児希望」と朱書きでご記入の上、託児希望時間(①9:40~12:00、②12:00~14:00、③13:30~16:00)をお書きください。2歳以上未就学の方を託児いたします。(無料) = 託児についての詳細は、女性交流センターまで =

☎ 富山市青年女性課(443-2051)または女性交流センター(433-1760)

1 講座のお知らせ

テーマ・内容	日程	時間	企画・運営担当
男女共同参画講座「向老学」 豊かな高齢期を迎えるためにさまざまな視点から共に学ぶ	10/6,12,19,26,11/2	19:00~21:00 (10/6のみ13:30~16:00)	富山市女性団体等連絡協議会
女性のための起業支援セミナー(募集期間は終了しました) 事業経営や「起業」を目指す女性のための、起業にいたる基礎知識や心構えなどの起業入門講座	10/4,11,14,18,25	19:00~20:30 (10/14のみ10:00~17:00)	富山市女性団体等連絡協議会
家事・子育てそれだけじゃいや! そんなあなたへ「お母さんのしゃべり場」 育児中の母親が抱える問題を話し合う	11/1,8,15,22,29	10:00~12:00	CRグループ セラ
男女共生時代のライフプラン・マネープラン ライフプランの確立により、家計の見直しを行い、貯蓄の必要性を学ぶ	11/2,9,16,30,12/7	13:30~15:30	フラップネット
ドメスティック・バイオレンス~法律と福祉の視点から~ 「DV防止法」施行に向けて、弁護士による講演や、電話相談、面接相談の技術を学ぶ	11/10,12/2,15,11/12,26 (11/10は公開講座)	14:00~16:00	グループ女綱 ^{なづな} ~ストップDVとやま
男だって料理講座 男性にも積極的に家庭生活に携わってもらうため、男性及び女性を対象に楽しく料理をつくる	12月~3月	未定	富山市女性団体等連絡協議会
世界の料理講座 各国の料理を学び、作りながら楽しく国際交流をする	12月~3月	未定	富山市女性団体等連絡協議会
超高齢化時代に豊かなセカンドライフを迎えるために 公的年金、医療、介護保障、税制、相続等について学ぶ	未定	未定	長木 秀嘉

*募集はそれぞれ「広報とやま」に掲載します。

2 法律相談・女性のための悩み相談・フェミニストカウンセリングのお知らせ(無料・要予約)

	法律相談	女性のための悩み相談	フェミニストカウンセリング(グループ)	
相談員	弁護士	精神保健福祉士 認定カウンセラー	テーマ (内容)	更年期、もう一度向きあう私
相談日	第1・3火曜日予定 (「広報とやま」にてお知らせ)	第1土曜日、第3水曜日予定 (「広報とやま」にてお知らせ)	日程	12/1,8,15,19,26,2/2,23, 3/2,9,16
時間	13:30~15:30	土曜日14:00~16:00 水曜日10:00~12:00	時間	14:00~16:00
予約受付	Tel 432-6611 (開催日の3日前までにご予約下さい)	Tel 433-1760 (開催日の3日前までにご予約下さい) 水曜日託児有り(要予約)	募集人数	10人程度 (詳しくは「広報とやま」にてお知らせ) 託児有り(要予約)

お問い合わせ先：富山市女性交流センター 〒930-0805 富山市湊入船町6-7 Tel 076-433-1760 Fax 076-433-1761

編集後記

生徒たちのキラキラした瞳・いきいきとした表情・男女仲良く笑顔で取り組む姿を観るにつけ、先生の熱い思いを聴くにつけ、「家庭科って何て素晴らしい内容を持った教科なんだろう」と改めて思いました。生徒たちの将来をちょっぴり覗いてみたい気持ちです。私も男女一緒に家庭科を受けたかったな.....。

高沢 美和

出版物を作成するというところに初めて携わりました。以前から興味のある分野だったので、とても充実して仕事を進めることができました。もちろん読者の方にとっても充実したもの、次号を楽しみとされるものを作りたいと思います。これからも「あいのかぜ」が富山の女性を始め、多くの方々にもっともっと浸透するように、興味のあるテーマを模索していきます。

中村里恵子

男女共同参画もジェンダーという言葉も知りませんでした。いま、この言葉を知ってよかったです。

「あいのかぜ」の編集をしながら、自分のジェンダーをみつめ、自分の中にある余計な気負いや自責感を取り除いていけたらと思います。

西谷 明美

タイトルの「あいのかぜ」は、「私(英語でI)の風」、「あいの風(富山弁で北東からの涼しい風)」、「愛の風」を表しています。

Cover 絵を書く学生・井上ヤスミチさんの作品
「素材はこだわってダンボール、コショウはこだわって粗びきです。料理も生活もコンビネーションを大切に。」 ホームページアドレス <http://web3.incl.ne.jp/yyyy/>

編集・発行 富山市役所市民生活部青年女性課
〒930 8510 富山市新桜町7 38 Tel. 076 443 2051
Fax. 076 443 2176

「あいのかぜ」へのご意見・ご感想をお待ちしております。
[宛先] 〒930 8510 富山市青年女性課(住所記載不要)
[アドレス] seinenjyosei-01@city.toyama.toyama.jp